

令和4年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人キラリ財団	
施 設 名	富士見市民文化会館キラリふじみ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	24,383	(千円)
公 演 事 業	18,635	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	5,748	(千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	『モガ惑星～宇宙は遠い 記憶のおんがくかい』(ド ーシてもソラミミ編)	8/27(土)、28(日)	出演：鈴木モモ、服部美千代、つむ ぎね、神田さやか、佐藤季敦、八幡 麻美、やまみちやえ、望月左太助他	目標値	620名
		メインホール		実績値	346名※
2	キラリ☆かげき団公演 第16回公演	3/11(土)、12(日)	演出：白神ももこ、照明：篠木一吉、 舞台監督：八木清市、音楽監督：萩 京子、出演：キラリ☆かげき団	目標値	600名
		マルチホール		実績値	343名
3	人形劇『百物語』	12/24(土)、25(日)	構成・演出：白神ももこ、人形美術： 本川東洋子、出演：榎本トオル、や なせけいこ、鈴木文、足立沙樹	目標値	480名
		マルチホール		実績値	204名
4	キラリ☆ふじみ 薪能	9/23(金・祝)	出演：塩津能の會、万作の会	目標値	600名
		カスケード特設能舞台		実績値	476名
5	キラリふじみ・コンサート シリーズ ニューイヤー コンサート2023	1/22(日)、2/4(土)	出演：周防亮介、小川恭子、田原綾 子、笹沼 樹、兼重稔宏、金子三勇士	目標値	400名
		メインホール		実績値	493名
6	二兎社『歌わせたい男た ち』	11/13(日)	作・演出：永井愛、出演：キムラ緑 子、山中崇、大窪人衛、うらじぬの 相島一之	目標値	450名
		メインホール		実績値	465名
7	劇団銅鑼『いのちの花』	1/7(土)	脚本：畑澤聖悟、演出、齊藤理恵子、 出演：佐藤響子 久保田勝彦 野内 貴之 池上礼朗 高原瑞季	目標値	400名
		メインホール		実績値	232名※
8	橋爪功・夜の朗読	1/27(金)	出演：橋爪功、演出：橋爪功、照明： 佐々木真喜子、音響：穴沢淳、衣裳： カナイヒロミ、舞台監督：庄山彰浩	目標値	470名
		メインホール		実績値	249名
9	キラリ☆風流寄席	6/25(土)	出演：瀧川鯉八、桂伸衛門、春風亭 昇羊、西村剛市	目標値	230名
		マルチホール		実績値	186名※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	サーカス・バザール	7/9 (土)、10 (日)	サーカス構成：アフタークラウディーカンパニー、出演：山本光洋、加納真実、サブリミット、目黒宏次郎、丹原順菜、久保直幸、長すみ絵、天才イカレポンチ、三雲いおり、Honoka、沢入国際サーカス学校メンバー	目標値	4,000名
		全館		実績値	入場者 2,688名 ※/有料 公演入場 者1,360 名
2	ふじみ大地の収穫祭	11/23 (水・祝)	主な実行委員：浅見隆広(富士見市商工会商業部会)、新井則幸(新井トマトファーム)、木内精一(木内こだわり農園)、柳下光雄(柳下建具店)	目標値	3,000名
		全館		実績値	1,083名 ※
3	キラリふじみ・ダンスカフェ&ダンスの時間	令和4年5月～令和5年3月	出演：齊藤コン、このめ	目標値	20名×10回+20名×5回=300名
		アトリエほか		実績値	137名※
4	こどもステーションplus	令和4年4月～令和5年3月	企画・進行：白神ももこ、アシスタント：岩澤哲野、永咲桃子、大道朋奈、有吉宣人、仁科幸	目標値	20名×15回=300名
		展示・会議室ほか		実績値	187名※
5	夏休みこども劇場『えんげきをつくろう』	8/1 (月)～8/7 (日)	進行役：特定非営利活動法人演劇百貨店	目標値	参加者数：20名 /入場者数80名
		マルチホール		実績値	参加者9名/発表会来場者35名
6	小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ	令和4年9月～令和5年3月	演劇：大池容子(劇作家・演出家) 音楽：金子三勇士(ピアニスト) 能楽：塩津圭介(喜多流) 狂言：万作の会(和泉流)	目標値	述べ12校45クラス×35名=1,575名
		市内小中学校		実績値	1,102名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

富士見市文化芸術振興条例（平成 24 年 6 月制定）の前文では、市の文化芸術活動を市民生活に根付かせる活動に当館の事業を挙げ、この条例に基づく、富士見市文化芸術振興基本計画（平成 26 年 9 月策定）では、「キラリ☆ふじみでの創造と発信」や「キラリ☆ふじみの施設の充実」などがその施策の柱とされる等、当館は文化芸術振興の中心施設として位置付けられている。そうした位置づけに基づいた当館のミッション、「心のゆとりや生きる活力に満ちた豊かな市民生活」の実現にむけて計画し、白神ももこ芸術監督と幅広いジャンルの提携アーティストが中心となって展開する公演事業 9 事業、普及啓発事業 6 事業を、本年度においてもコロナ禍における制限や制約の一部を持続しながら、予定どおりに実施することができた。

首都圏の 30 km 圏内という立地や、農業を生業にこの地に根をおろし先祖代々暮らしている住民から、2000 年代に転居してきた若い世代の住民に至るまで、様々なバックグラウンドやライフスタイルを持つ市民が暮らす富士見市の地域性に基づいて組み立てた計 15 事業を、「①鑑賞」「②体験・交流」「③育成」「④支援」の 4 つの事業運営方針に基づいて展開することで、「開かれた場」、「出会いや交流の場」、「人材を育む場」の、当館のミッション実現にむけた 3 つの場づくりの実践に取り組んだ。

特に開館 20 周年となる本年度は、館の中央に広がるカスケードに特設能舞台を設けて行った「キラリ☆ふじみ薪能」や、白神ももこ芸術監督を中心に、多様なジャンルのアーティストや「キラリ☆かげき団」の市民のメンバーが 2 カ年に亘り創作上演した音楽作品『モガ惑星』等の周年記念事業を中心に、異なる価値観を持つ市民がその違いを越えて出会い、交流し、新しい価値観や視点を共有できる場や機会の提供を一層促進させた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当館が地域の中核劇場として、当該評価軸のような意義を果たすために展開している文化芸術活動には、市民とアーティストによる活動を軸に、これに市内外の各種団体との連携や協働を加え持続的に進んでいる活動があり、以下はその具体例である。

#### <主に文化的意義、社会的意義を持つ活動の例>

◆「ニューイヤーコンサート」の関連企画①公開リハーサル（7 回目）では、コンサート本番への来場にはハードルが高い未就学児童を同伴する親子の観客や、市内の障がい者福祉施設の入所者を無料で招いている。加えて②公開ピアノレッスン（6 回目）で、一流の演奏家から高いレベルの指導の体験機会を合わせて提供することで、新たな鑑賞者の育成や、次世代の演奏家のレベル向上にその役割を果たしている。

◆おやこ劇場と協働し、「サーカス・バザール」でのワークショップ「大きなガラスに絵を描こう!!」の運営や、おやこ劇場の例会公演の共同開催等、青少年と劇場との出会いの場づくり持続的に進んでいる。

#### <主に文化的意義、経済的意義を持つ活動の例>

◆白神芸術監督の初演出で大きな成果を上げた「第 16 回キラリ☆かげき団公演」では、出演の市民自らの手売りにより観客を満員とする、市民と劇場の関係を活性化させる存在として大きな意義を果たしている。

◆市内の農業者や事業者と、「食と文化＝まちづくり」の考え方の共有を図りながら協働している「ふじみ大地の収穫祭」では、毎年 11 月 23 日に「1123 いい富士見（ふじみ）の日」として富士見市商工会が主催する「ふじみマーケット」を当館の敷地内に誘致し、また同日に隣接する大型商業施設「ららぽーと富士見」と商工会が共催する「賑わいづくりイベント」と提携して、3 つのイベントを一体的に開催している。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### <公演事業>

●白神芸術監督による3作品の創作・上演を通じて、当館主催公演の新規観客の充実・発展を図るための目標を定め、これにむけて取り組んだ。

☑『モガ惑星』⇒①当館主催公演の新規観客数 目標：150名→実績：80名（達成率53.3%）

②令和3年8月の創作初演（第一章）を鑑賞した観客の繋がりでの来場した新規鑑賞者  
目標：100名→実績：40名（達成率40%）

☑『キラリ☆かげき団第16回公演』⇒①当館主催公演の新規観客数 目標：200名→実績：150名（達成率75%）

⇒②さらに幅広い世代のメンバーの拡充

目標：新規メンバー10名→実績：新規メンバー2名（達成率20%）

☑人形劇『百物語』⇒①当館主催公演の新規観客数 目標：300名→実績：100名（達成率33.3%）

⇒②近隣の手話サークル等の団体が、①鑑賞、②参加・交流できる企画を増加させる。

目標：2事業→実績：2事業（達成率100%）

●公演本番の有料観客数並びに、公演に関連して行う体験・交流プログラムへの参加者数の目標を定め、これにむけて取り組んだ。

☑公演有料観客数 目標：2,550名→実績：1,946名（達成率76.3%）

☑体験・交流プログラム参加者数 目標：1,190名→実績：1,399名（達成率118%）

#### <普及啓発事業>

●多様な市民が参加できる、普及型の大型イベントへの来場・参加者数の拡大

☑「サーカス・バザール」来場・参加者数 目標：4,000人→実績：2,688人（達成率67.2%）

☑「ふじみ大地の収穫祭」来場・参加者数 目標：3,000人→実績：1,083人（達成率36.1%）

●子どもや若い世代の参加促進にむけた、参加者数の拡大

☑「キラリふじみ・ダンスカフェ and ダンスの時間」

回数 目標：15回→実績：9回（達成率60%）／参加者数 目標：300人→実績：137人（達成率46%）

☑「こどもステーションplus」

回数 目標：15回→実績：11回（達成率73%）／参加者数 目標：300人→実績：187人（達成率62%）

☑「えんげきをつくろう」

回数 目標：7回→実績：7回（達成率100%）／参加者数 目標：20人→実績：9人（達成率45%）

●「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」の充実化

実施校数 目標：12校→実績：5校（達成率41.6%）

実施クラス 目標：45クラス→実績：33クラス（達成率73.3%）

\*本年度においてもコロナ禍における観客や参加者の拡充に全般的に苦慮し、目標値の4割～7割程度の実績となる項目が多かったが、今後は令和4年度の補助事業に対して昨年11月に受けた「劇場・音楽堂等機能強化推進事業ヒアリング調査」の際の、目標値の設定に関する助言を活かして、社会の情勢や近隣の状況をより深く考察したうえでの目標設定につとめる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### <事業期間について>

公演事業では、6月の「キラリ☆風流寄席」をはじめとする全9公演、普及啓発事業では、4月から開始の通年事業「こどもステーションplus」をはじめとする全6事業を計画し、概ね当初の計画通りに実施することができた。特に、白神芸術監督が創作の中心となり創作上演した3つの事業では、8月の「モガ惑星」から12月の人形劇「百物語」から3月の「キラリ☆かげき団公演」と、芸術監督の作品を長期にわたって市民に提供するためのスケジュール調整と管理に留意した。

また、「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」の音楽プログラムを担当した、ピアニスト金子三勇士氏のワークショップのスケジュール調整においては、2月本番のピアノ・リサイタルの鑑賞も喚起できるようなスケジューリングを、実施校の協力のもと行うことができた。

以下の事業は、助成要望時の開催期間から変更して行った主な事業である。

●「橋爪功・夜の朗読」\*実演者側とのスケジュールの最終調整により変更

申請時：令和5年3月[1回]（予定）→実施日：令和5年1月27日（金）

●「いのちの花」\*関係者にコロナ陽性の疑いが出たための変更

申請時：令和4年10月1日（土）→実施日：令和5年1月7日（土）

●「キラリふじみ・コンサートシリーズ ニューイヤーコンサート2023」\*開館20周年を記念する一層祝祭感、特別感に富んだ2本立てプログラムとしたことによる変更

申請時：令和5年1月[1回]（予定）

→①令和5年1月22日（日）ニューイヤーコンサート2023～時空を超えて、音楽と旅する

→②令和5年2月4日（土）金子三勇士ピアノ・リサイタル2023 原点から頂きへ

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### <事業費について>

収支に関して以下のとおりであった。\*支出は助成対象経費

◇公演事業 収入 [計画]11,160,000円→[実績]7,955,810円（収入率71%）

支出 [計画]41,423,000円→[実績]44,123,778円（執行率107%）

◇普及啓発事業 収入 [計画]1,115,000円→[実績]1,042,400円（収入率93%）

支出 [計画]11,964,000円→[実績]13,379,163円（執行率112%）

客席を使用する事業については、1年を通じて客席定数の制限を解き実施することができたが、昨今の社会経済状況の動向に注意しながら当財団の財政状況を踏まえ、本助成金の有効活用に最大限努めた。

公演事業の収入率（71%）は、昨年度の収入率（49.9%）と比較しても、コロナ禍による制限や制約の状況に比例するように観客が徐々に戻りつつある様子がうかがえる。

支出の執行率（公演=107%、普及=112%）に関しては、本助成の内定額と自主事業費の主たる財源である当館の施設利用料の収入状況を見ながら本助成金の有効活用に最大限努めた結果である。

普及啓発事業の収入率（93%）は、「サーカス・バザール」において、メインホールを会場に行ったサーカスショーのチケット収入で、開催当日でも気軽に立ち寄って鑑賞できる開催形態が好評で高い収入率を得ることができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ◆地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源を最大限に活かした事業展開

芸術面における中心的存在となるのは白神ももこ芸術監督で、当館のビジョンであり、芸術監督の芸術方針にも重なる「ジャンルや垣根を越えてひとが繋がる開かれた場所づくり」に自らが率先してリーダーシップをとり、これを体現している。

また、白神芸術監督は、当市の文化芸術行政の担当課が主催して行う若い世代むけのワークショップを意欲的に行うなど包括的に活動することで、劇場の参加者や行政方面なども含めて広範囲にわたって、当館のビジョンやそれに基づく活動が認知、理解されるようにつとめている。

今年度の事業で創造性の視点に沿った特徴的な事業として先ず、芸術監督企画『モガ惑星』を挙げる。本事業は、2011年の劇場ツアー型パフォーマンス「モガっ！記憶はだいたい憶測。」、一昨年度のこどもとおとなでつくるおまつり「モガ溪谷」に続く、市民の観客からは“モガ”の愛称で、参加や鑑賞の好循環を生み出しているシリーズで、今作では2か年にわたり、7つの惑星を旅するホルスト作曲の組曲『惑星』を主題に、総合演出の白神芸術監督に、テキストを担当した永山智行氏（劇団こふく劇場）をはじめ、音楽家、舞踊家、俳優、市民が参加する、音楽会の概念を越えた作品を創作上演した。

この創作で大きな収穫となったのは、①創作に参加した手話ニュースのキャスターである河合祐三子氏による「サインポエム」という、当館にとって新たな表現手法に出会い、かつ、当館主催の市民オペラ合唱団「キラリ☆かげき団」のメンバーによって実践できたこと。②これまで当館主催事業との接点をあまり持たなかった、市内の手話団体のメンバーとの交流が生まれ、数名が鑑賞に訪れてくれたこと。③「キラリ☆かげき」が持つ市民との広いネットワークにより、近隣の小学校から4名の子どもが創作に参加し、豊かな未来を願う作品のラストシーンに出演したことで、常に進化していく創作の醍醐味を分かち合うことができたこと、などが挙げられる。

また、本事業を通じて、白神芸術監督と芸術方針を共有するアーティストとの連携が生まれ、令和5年度に永山智行氏が主宰する「劇団こふく劇場」の作品の上演が決まる等、ネットワークの拡充にも確かな手応えとして感じることができた。

当館の開館20周年記念『キラリ☆ふじみ薪能』では、当館の中央のカスケード（水の広場）に特設能舞台を設置して、「喜多流」そして「万作の会」による、能と狂言の世界を堪能できる、「キラリ☆ふじみ」では初となる、「薪能」を創作上演した。複雑な構造からなるカスケードへの舞台設置には、当館で様々な形態で行うイベントの舞台監督をつとめてきた白石英輔氏や、当館の舞台技術面を一手に引き受ける「有限会社創光房（代表：篠木一吉氏）」らの、安全面への万全の配慮と館の機能性を存分に発揮する確かな技術面のサポートにより、オリジナルの様々な創作が成り立っている。

また、連携するアーティストの中で、トップンホールのプロデューサーの西巻正史との共同作業は欠かせない。当館の芸術監督のこれまでの専門分野（ダンス・演劇）に加えて、音楽分野の充実に向けて、西巻氏のプロデューサーにより2013年から毎年、当館のための企画「ニューイヤーコンサート」を実施してきた。

本年度のニューイヤーコンサートは、田原綾子（ヴィオラ）、笹沼樹（チェロ）、兼重稔宏（ピアノ）らが出演する、濃密かつ精緻な室内楽のコンサートと、過去2度のニューイヤーコンサートの出演で名演を聴かせた、金子三勇士（ピアノ）によるピアノリサイタルと、開館20周年を記念する祝祭性に富んだ豪華2本立てによるコンサートで観客を魅了した。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### ◆当館ならではのスタイルをもった市民協働・参加型事業による地域振興

#### <サーカス・バザール>

平成 24 年に開始し毎年 7 月に実施しているこの企画は、サーカスのパフォーマンスと市内の農業・商工業者等の市民が出店するマーケットが全館を会場に繰り広げられ、市内外から多数の来場者が訪れる幅広い層の市民に親しまれている事業である。また、本事業は幼少期や青少年期にむけた当館との出会いの機会となる入口事業として位置付けており、市内近隣の幼稚園 16 施設に約 2,700 名、市内 18 校の小・中・特別支援学校に約 9,000 名にチラシが手渡すようにしている。開催を重ねるごとに家族連れや若い世代の来場が多くなり、早い時期から鑑賞や参加することの楽しさや市内の食や産業に関心や理解を深める貴重な契機となっており、地域振興に欠かせない事業として全市的に認知されている。

さらに本事業を通じて、商業や農業等の生業の違いや、居住地域の垣根を越えて、市民の間に新しい交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援に尽力いただいている。

#### <ふじみ大地の収穫祭>

上記の「サーカス・バザール」での市民との協働の経験を活かし、地域の祭りの再生と活性化を通じてまちづくりを目指すイベント「ふじみ大地の収穫祭」を平成 29 年度に開始し、毎年 11 月に行っている。

これまでは、商業や農業やまちづくりの分野で活動する市民が組織する実行委員会が中心となり、当館のホール内やロビー空間などに、郷土芸能が演じられる舞台や農家がつくる料理が並ぶ出店コーナーなどを設けて、賑わいを創出してきたが、ここ数年のコロナ禍で中止や制限・制約を強いられてきた。

本年度は多少の制限や制約を残す形での開催となったが、地元で栽培される“お米”を食のメインテーマに、炊き立てご飯と地元野菜で調理したけんちん汁を来場客に振舞い、お米の生産者による「お米作りの秘訣・魅力」のレクチャー、そして芸能では、水田が豊かに広がる富士見市南畑地区で歌い継がれる、合唱・音楽構成詩「水田に生命輝く」の上演など、賑わいが徐々に戻りつつあり、実行委員の市民のメンバーからの次回開催への期待の声が寄せられている。

### ◆学校教育機関との連携による地域の文化芸術の発展

当館からほど近い私立高校と連携関係にあり、当館の主催公演や関連ワークショップの機会が、芸術体験学習といった学校教育プログラムの一つとして活用されている。具体的には当館の事業運営サポート委員会の市民のメンバーが企画する『キラリ☆風流寄席』や、万作の会による「狂言公演」が、このプログラムに取り入れられ、令和 4 年度には、劇団銅鑼による演劇公演『いのちの花』関連ワークショップに参加した学生 2 名が本番のラストシーンに出演する等、毎年、大きな成果をあげている。

こうした公立文化施設と学校教育機関の連携による地域の文化芸術の発展を今後も継続し、着実に発展させていく。

言葉をさかすワークショップ@キラリ☆ふじみ 劇団銅鑼『いのちの花』関連企画

<https://www.johokusaitama.ac.jp/archives/11156>



## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### ◆人材配置と育成

当館は、マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者に豊富な経験や実績を有する専門の人材を配置し、館の貸館業務全般を担う「管理担当」、主催事業の企画・運営を担う「事業担当」の2担当制で業務を行う。

職員の年代構成について、正規職員の半数以上が40代となり、うち職員の複数がこの数年で定年退職という変換機にある。令和2年には3名の若手職員を雇用しこのうち2名を正規職員に昇格させ、若手主体の館運営にむけて循環を図っている。

#### ◆財源の安定化

館の人件費を含む維持管理費として、市からは指定管理料（毎年約1億9千万円）が支出されている。事業の財源は、自主事業への充当が認められている施設利用料と公演チケット収入増にむけた取り組みと並行して、一層充実した自主事業展開のための補助金、助成金等の外部資金の獲得に努めている。

\*令和4年度 文化庁 24,383,000円（一財）地域創造 4,000,000円

#### ◆ネットワークの構築（劇場・音楽堂等、高等教育機関とのネットワークの具体例）

・伊藤キムソロダンス『ダミーズ』を、「パティオ池鯉鮒」「宮古市民文化会館」「高知市文化プラザかるぽーと」と連携して上演。（令和5年9月）

・連携アーティストの永山智行主宰の劇団こぶく劇場による演劇公演『ロマンス』を当館で初上演。（令和5年12月）

・当館にほど近い私立高校の芸術体験学習のプログラムに当館主催公演を継続的に活用。（寄席公演、狂言等）

#### ◆PDCAサイクルに市民のニーズを組み込んだ事業計画と事業運営

当館では、助成の趣旨とそれを活用する当館の意義を深く認識したうえで事業を計画し（P）、これに基づいて、当館のアーティストが主導するプログラムを実施する（D）。そして、市民と直接触れあえる事業の現場や（2）の妥当性の欄で延べた、市内外の各種団体との協働やヒアリングを通じて、市民が日ごろ自らの生活や仕事、また地域の現状等について抱いている意見や問題意識を把握し（C）、そうした諸課題に文化芸術を通じて向き合うための運営手法の見直しを図る（A）。このような手法を通じて、助成を最大限に活用し、かつ市民ニーズに沿った事業展開に努めている。

